

2月定例記者会見質疑応答記録用

▽日時:令和5年2月24日 午後2時から

▽会場:稲敷市役所 4階全員協議会室

▽参加記者:茨城新聞社(2名)、時事通信社、読売新聞、毎日新聞 5名

▽参加者(市):市長、副市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、教育部長、危機管理監、土木管理部長、地域振興部長、保健福祉部企画監(社会福祉課長)、行政経営部企画監(総務課長)、土木管理部企画監(建設課長)、企画財政課長、秘書政策課長、まちづくり推進課長、まちづくり推進課説明補助員

■資料 別紙のとおり

■市長あいさつ

改めまして、皆様こんにちは。記者の皆様には、大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、日頃より、皆様には本市の情報発信にご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

はじめに、2月6日トルコ南部のシリア国境近くを震源とするマグニチュード7.8の大地震の発生により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。そして、被災地の一日も早い復旧・復興を願っております。トルコと隣国シリアの死者数は50,000人を超え、被災者は約2600万人にもものぼるとされています。

現地では今も懸命な救助活動が続いており、日を追うごとに、甚大な被害状況が報道され私も皆様と同様に大変心を痛めております。このニュースを最初に聞いた際には、12年前の3.11の東日本大震災の記憶が鮮明に蘇ってまいりました。改めて、自然災害の恐ろしさ、防災・減災の大切さを再認識するとともに、そうした対応について、今後も備えていかなければならないと決意を新たにいたしました。

次に、国内に目を向けますと、新型コロナウイルス感染症の取り扱いについて、政府は、5月8日から現在の2類相当から5類に移行すると発表がありました。また、マスクの着用についても3月13日から緩和され、個人の判断に委ねることとなりました。本市においても、今後行われる卒業式や各種イベント・行事等についても、マスク着脱等、それぞれの状況に留意して検討するなど、個人の自由意思を尊重しながら、柔軟に対応して参りたいと考えているところであります。

3年以上に及ぶコロナ禍の生活から、今後大幅に、感染対策や規制等が緩和され、文字通りコロナと共存しつつ、社会経済活動と日常をコロナ禍前のように取り戻していくこととなりますが、現在、エネルギー価格や物価等の高騰により、地域経済への影響も、依然先が見えない状況であります。

本日、私から説明させていただきます本市の令和5年度の新年度予算も、そうした影響を考慮して編成したつもりであり、この予算案を中心に、市民の方々の不安を軽減し、要望やご期待に応え

られるように、現状を把握しながら「新たなステージのまちづくり」に全身全霊で取り組んで参りたいと考えているところであります。

さて、この冬は、厳しい寒波の到来により、各地で、記録的な大雪や積雪をもたらした一方、春のような暖かな日もあるなど、寒暖の差がとて大きくなっております。2月も下旬を迎えましたが、まだまだ体調を崩しやすい時季でもありますので、記者の皆様におかれましては、くれぐれもご自愛いただきたいと思います。そして、引き続き、記者の皆様方には、本市の様々な情報、魅力の発信にご支援ご協力をお願い申し上げます。

本日は、2月28日に開会となります令和5年第1回 稲敷市議会定例会に上程予定の議案等についてこの後ご説明をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、議案等の説明の前に、私の方から、今後の稲敷市のまちづくりの方針として作成いたしました、「稲敷〈新〉未来ビジョン」の説明をさせていただきます。この稲敷〈新〉未来ビジョンは、今回2期目となる4年間について、その考え方や取組案などを取りまとめたもので、新年度予算の内示に際しまして、市政運営の方向性を示すものとして、公表させていただくものです。

2ページをご覧ください。今回の〈新〉未来ビジョンでは、「新たな視点で挑む、新たなステージのまちづくり」を目標に、3つの方針を掲げ、取り組んで参りたいと思っています。それでは、この3つの基本方針の概要をご説明します。

3ページ、4ページをお願いします。見開きで、方針の1つ目、「地域の特性を活かした持続可能なまちづくり」の取り組みを示しています。1つ目としては、本年度策定いたしました「持続可能な地域づくりプラン」を全庁的な取り組みとするために、来年度策定予定の総合計画をはじめ、各法定計画等に反映することとしています。

また、2つ目としては、行政・市民・企業等との連携・協力、民間企業等のアイデアの活用など、「協働のまちづくり」を推進していくこと。

更に、3つ目は、民間等との連携・協力にあたりまして、市役所の働き方改革や、行財政運営の見直しを進め、官民連携のパートナーとしての体制強化を図りたいと思っております。

5ページ、6ページをお願いします。2つ目の方針「市民に寄り添った安全・安心のまちづくり」になります。ここでは、多種多様化している市民の方々の要望や不安等に対し、寄り添った対応を掲げております。

1つ目は、自然災害への対応から、日常生活に至る心配事等への対応や対策の展開、2つ目は、少子化等が著しい状況に鑑み、子育て・教育の支援強化等、3つ目は、急速に進展するデジタル化の推進と、その一方でデジタルデバイド等への対応など、市民に寄り添い、できる限り皆さんの不安の払拭に努め、安全・安心のまちづくりを進めていきたいと思っております。

7ページ、8ページをお願いいたします。3つ目の方針、「ポストコロナを踏まえた地方創生のまちづくり」であります。

内容の1点目としては、各種拠点の整備推進を述べております。持続可能な地域づくりプランの一つの方針でもあります「拠点化・複合化」とともに、圏央道の4車線化等を踏まえ、インター等の周辺開発についても、これまで以上に力を入れてまいりたいと思っております。

また、2つ目は、産業や経済の活性化について、新たなチャレンジを促進し、行政・市民・企業

等で展開しようというものです。

最後3つ目は、和田公園の整備も進んでいる状況ですが、これらの地域資源を活用した取り組みは、施設整備だけでなく、その運用も十分検討しながら、地域資源を最大限活かして、地方創生のまちづくりを進めて参りたいというものであります。

以上が、私の2期目4年間の重点的なプロジェクトを取りまとめさせていただきました、この稲敷〈新〉未来ビジョンの説明を持ちまして、ご挨拶とさせていただきます。

■質疑応答

【令和5年度予算案・学校給食の無償化について】

Q:無償化は、恒久化を視野に入れたものか？

A:ふるさと応援基金を財源とするため単年度事業だが、令和5年度中に恒久的な財源を検討し、可能であれば恒久的な制度としたい。

Q:無償化に対して、保護者からはどんな反響があったか？

A:令和4年度の9月から実施しているが、保護者からは大変喜ばれている。

Q:小中学校の数と生徒数、給食費の金額はいくらか？

A:令和5年度の生徒数は、小学校8校で生徒1,312名。中学校4校で798名を想定。給食費は小学校3,667円、中学校3,887円を予定。

Q:県内で給食費無償化を恒久的に実施している自治体はあるか？

A:潮来市、水戸市で実施している。その他にも実施している自治体があると把握している。

【令和5年度予算案・放課後児童健全育成事業について】

Q:児童クラブの預かり時間は、何時から何時に延長されるのか？

A:現在、平日は放課後～18時40分まで、学校休業日は8時～18時40分。土曜日は8時～18時。延長後は、平日が19時まで、休業日が7時30分～19時、土曜日が7時30分～19時になる。

Q:一部利用条件の緩和とはどんな内容か？

A:これまでは75歳以上の祖父母の家庭を利用の対象としていたが、緩和後は65歳以上の祖父母のいる家庭まで拡大した。

Q:預かり時間を延長する理由は？

A:利用者へアンケートを行った結果、延長を希望する人が多かったため。

【令和5年度予算案・航空業界学習事業について】

Q: どういった事業か？

A: 成田空港で飛行機をチャーターし、機内サービスや機内アナウンスの体験を行う事業。小学校高学年・中学生を対象とし、小中学生 60 名、保護者 60 名の計 120 名参加を想定。

Q: 実施時期は決まっているか？

A: 未定。夏休みの時期を希望しているが、飛行機をチャーターしなければならないため航空会社と相談して決める。

Q: 実施は 1 回か？

A: 1 回。飛行時間は 2 時間 30 分を予定。

Q: 飛行機は実際に離陸するのか？

A: 実際に飛行し、飛行中の機内を体験する予定。

Q: 成田国際空港周辺対策交付金の総額はいくらか？

A: 3 億 7 千万円程度。住宅の騒音対策支援事業を含む。

Q: 委託料の成田国際空港航空機騒音実態調査業務とはどういった事業か？

A: 市では成田空港が指定する第 1 種区域に加えて、市が指定した隣接区域でも住宅の防音対策助成を行っている。隣接区域の指定について市民から要望があった時に、騒音を調査する事業。

Q: 調査を行い、隣接区域を拡張するということか？

A: 現在の隣接区域は令和 5 年度までの指定。令和 6 年度以降の見直しに向けて、令和 4 年度で調査を行った。現在は成田空港と見直し内容について協議している。

Q: 委託料の内訳はどのような内容か？

A: 市役所から成田空港までのバス代、飛行機のチャーター代、機内サービス代。

Q: 体験飛行のルートは？

A: 当日の天候の影響もあるが、機内から富士山を見られるコースを想定している。

Q: 近隣で同じような学習事業をやっている自治体は？

A: 千葉県では積極的に行われている。昨年横芝光町で実施した事業を見学した。

Q: 機内アナウンスの体験は、子供たちがアナウンスを行うのか？

A: 職業体験を想定した事業であり、子供たちに CA 業務を体験させたいと考えている。

Q:財源の成田国際空港周辺対策交付金(地域振興枠)は、これまでどのような事業に充てられていた交付金なのか？

A:財源の交付金(地域振興枠)は、市内の教育および地域振興の為に交付されてきた。これまで道路の整備、教育施設の改修、消防自動車の購入などに使われてきた。今回は交付金の一部を教育の一環としてこの事業に充てる。

【令和5年度予算案・江戸崎公民館図書室移転支援業務委託について】

Q:図書室移転の具体的な時期は？

A:具体的な時期は未定。令和5年度は図書館の専門家を交えて、どのような図書室にするか計画を策定する。

Q:移転によりどのような点が魅力アップにつながるのか？

A:現在の図書室は、公民館の一室であり、エレベーターがない等の理由で盛んには利用されていない。パンプは買い物客で集客が見込めるため、立ち寄りやすい図書室とすることで利用者を増やしたいと考えている。また、図書館の専門家の意見も聞きつつ、魅力アップを図りたい。

Q:図書館の専門家とはどんな人物を想定しているのか？

A:他自治体で魅力的な図書館を提案した方を想定している。

【令和5年度予算案・和田公園再整備事業について】

Q:和田公園の再整備とはどのような工事をするのか？

A:公園管理棟の建設工事、松林の間伐工事を予定。

Q:管理棟の建設はどのようなメリットがあるのか？

A:キャンプ場利用者の受付業務や、公園利用者向けの休憩施設の設置などを予定している。

Q:休憩施設というのは、サイクリスト向けのものか？

A:現在設計中だが、公園に来場した人が休憩できる施設を兼ねそろえた管理棟にしようと考えている。